

医療的ケア児の支援に関する市町村情報交換会アンケート結果（概要）

1 参加状況

- ・参加者数：31 名
- ・アンケート提出者数：14 名
- ・所属：保健・医療 3 名、障害・福祉 11 名
- ・職種：行政事務 7 名、保健師 6 名、その他 1 名
- ・評価：非常に良い 1 名、良い 10 名、普通 3 名

2 評価理由について教えてください（非常に良い～普通）

【良かった点】

- ・ うわまち病院小児科医の話しが具体的で、素人にもわかりやすかった。地域拠点の病院在宅医、患者の家族との関係等、在宅医療を進めるにあたっての課題や今後の方向性を知ることができた。
- ・ 政令都市も含めての情報交換会であったので様々な考え方なども情報として入手でき、また、小児の在宅医療に従事する医師不足の問題は茅ヶ崎市だけでなく、全国的なものであることが理解できた。
- ・ 他市町村の取り組みが確認できた。
- ・ 医療的ケア児の在宅医療について知ることができた。
- ・ 宮本先生のお話が、地域医療の実情も踏まえながら、非常に参考になった。
- ・ 小児在宅の課題について、医療側の問題点が良くわかった。
- ・ 在宅医療の取り組みや課題等をわかりやすくお話しされ、よくわかった。
- ・ 小児科医で在宅移行や在宅生活について医師側からの課題を知ることができた。
- ・ 講演については、小児医療の現場のお話で耳慣れていないこともあり、興味深く拝聴した。

【今後の改善点】

- ・ 各市町村の医師会の状況などももう少しわかると良かった。
- ・ 医療的ケア児の「就園の難しさ」「地域でのケアマネジメントは誰を主体にするのか」「地域での医療的ケアは十分か」「経済的支援の必要性」「担い手不足」等テーマが多岐に渡っていたためと各市町で抱えている課題の違いもあり、出席者の所属・職種によっては課題に対する共通理解や回答が難しかったように感じた。
- ・ 実際に行政、病院、福祉サービス提供者間で連携に苦労したケース等の紹介をもとに、課題への共通認識を持つことが出来ればよかったと思う。
- ・ 予定時間終了 5 分前から議題が 4 つある意見交換を行うというのは、時間設定に無理があったのではないかと感じた。

- ・ 講演の中で在宅医療の担い手不足や診療報酬など、市町村の福祉分野ではどうにもできない訴えがメインに感じたため、福祉分野との連携という話の前に医療の分野できちんと整理しなければならないことが多かったように感じた。
- ・ 講演で医療側の課題を知ることができたのは良かった。その先としてどのように行政と連携していけるか検討する時間が欲しかった。

3 今後情報交換会で取り上げてほしいテーマや講演内容

【現状や資源の把握】

- ・ 医療的ケア児のうち、重心児以外の対象児の現状について
- ・ 重心児以外の対象児のレスパイト先について
- ・ 医療機器をつけたこどもに対して、地区エリアを外した県内や神奈川県近隣のレスパイト入院や短期入所ができる場所。小児の医療処置をしてくれる訪問看護ステーションや訪問介護の状況。
- ・ 福祉施設（医療型・福祉型）、教育現場でできる医療ケアの実情。
- ・ 医療ケア児数を確認するための調査手法の共有
- ・ 関係機関の協議の場の構成員の想定

【事例検討】

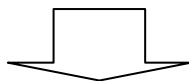
- ・ 茅ヶ崎市でいえば平成 29 年 4 月から保健所設置市となり、在宅医療の推進についても各部署がその機能を最大限に活用していくために、いかなる連携をしいかなるシステムを構築していけばいいのかという部分も大きな課題となっている。支援を必要としている人に対して切れ目のない支援をしていくために「在宅医療」「地方包括ケアシステム等の観点」から参考となりそうな事例などあれば勉強したいと思う
- ・ 実際にケース対応にあたっている病院の相談室などのワーカーから事例を提出してもらい事例検討を行うなど、実際の医療の現場でケースワークにあたっている人の顔の見える関係づくりのための場があれば、今後の連携に役立つのではないかな。
- ・ 医師会などの医療関係団体へのアプローチや連携について、成功事例などを含めた成果や課題について。

【その他】

- ・ 引き続き小児等在宅医療連携拠点事業の取り組みについて教えてほしい。
- ・ 他中核病院の先生のお話。
- ・ モデル事業を実施された市町村の担当から、実施後変化や具体的な取り組みなど伺える機会があると良い。

4 その他（感想、意見等）

- ・ 市町村の医ケア児に対する取り組みや連携には課題が多く今後増えていくであろう医ケア児・者の今後目指す方向性（他分野との連携、地域での生活、在宅医ケア）と現状の市町村の体制にはだいぶ開きがあると感じた。医療分野のお話を聞く機会はほとんどないので、貴重だった。
- ・ 出席者についてはもう少し検討してよいのではないかと思います。障害、児童、高齢等各分野にその担当者にでてもらうことに加えて、例えば在宅医療の推進の中心となっている担当課等があるところはそうした課も参加してもらうなどの工夫が必要ではないかと思う。回答している市町村も別の課で回答したことを会議で話さなければならなくなるなどもつたいないところがあると思う。
- ・ 全国医療ケア児支援協議会では訪問介護の「居宅しほり」撤廃を求めている記事を見ました。平成 28 年 6 月の法改正の連携をも理解しますが、福祉、学校地域の中で安全に医療ケアを受けることができる制度、看護師等の人員配置がされない限り連携だけでは解決しないように思います。小児の医療ケアは、生命に直結する行為です。連携だけを強調する法改正に一部疑問もあります。気切、吸引、人工呼吸器のほうが移動するときの支援の希望も多いのですが保護者の切実な声にこたえることが出来ない現状です。
- ・ 今回の情報交換会は障害担当課ばかりであったと思うが、保健、医療、教育機関の行政機関等はどのような役割を果たしていくのか。
- ・ 取組状況回答にもあるように他市町村の取組状況を今後とも共有させていただきたく思います。
- ・ 現場の小児科医への在宅医療への理解を深めるための働きかけが課題と感じています。行政からの働きかけが必要と話がありましたが、行政がいくら働きかけたところで地域の小児科医の理解は得られにくい現状があります。医師会の協力であったり、現場レベルでは改善できない課題と感じています。



平成 29 年度も実施予定

情報交換のテーマについては、28 年度参加者の意見を踏まえて検討する。

テーマとしては、例えば、

○具体的事例を基にした医療との連携方法について

○重症心身障害児以外の医療的ケア児の実態やレスパイト先について

などが考えられる。